

ことばと愛顔（えがお）の力

佐竹 紗依

「採用試験、頑張ろうな！」

この“ことば”と“愛顔（えがお）”に私は何度も助けられた。

私が教員採用試験の対策を真面目に行い始めたのは大学3年生の冬。所属団体の幹部交代式が終わってからである。「早めの対策を！」とよく言われるが、課外活動や資格勉強、アルバイトで忙しいことを理由にここまで逃げていた私にもようやく火がついた。

初めて模試を受けたのは4年生になる直前の3月。結果はC判定。「勉強しはじめたばかりなのにやるやん、私！」とポジティブに受け止めると同時に、わかっていない、理解できていない範囲の多さにとても焦った。

4月になって、私は毎日【教職サポート室】に通うようになった。教職サポート室には、私と同じように「教員採用試験」に向けて勉強している学生がいた。私たちは毎日教職サポート室が開いてから学校が閉まる時間まで勉強した。毎日「今日はここまでやる」と勉強内容の目標を決めると同時に、「Aくんの集中力に負けない！」、「Bくんより1問でも多く問題に取り組む！」、「同じ国語科のCくんに気持ちで負けない！」と思いながら勉強した。私にとってこのような競争・共闘相手がいることは、モチベーションの面でとても大きかった。

6月下旬。教員採用試験の火蓋が切られた。私は、教員採用試験の場に慣れるために【高知県】を、本命として【神戸市】、【愛媛県】を受験した。

【高知県】の試験では、時間配分がうまくいかず、専門教科（国語科）問題で解ききることができなかった。そのため、次にある【神戸市】、【愛媛県】では時間内に全ての問題に取り組めるように、時間を計りながら過去問に取り組んだ。

7月には【神戸市】、【愛媛県】の試験を受けた。どちらの試験も「できた！」と思うことができたため、そこまで心配してはいなかったが、やはり結果が出るまでは落ち着かなかった。

二次試験前（夏休み）には、サポート室の先生や友だちに手伝ってもらいながら対策を進めた。今まで模擬授業をほとんど行ったことがなく、特に自信のなかった「模擬授業」練習を中心に、「場面指導」練習、「小論文」練習にも力を入れた。

8月下旬から9月初旬、【神戸市】、【愛媛県】の二次試験を受けた。【神戸市】の試験では「模擬授業」、【愛媛県】の試験では「小論文」で練習の成果を出しきることができず、とても悔しく思った。また同時に、達成感があり、肩の荷が下りた気がした。

10月。最終合格者の発表があった。【神戸市】は任期付きの合格となり、最終合格とまではいかなかったが、【愛媛県】で最終合格をいただくことができた。ネットで自分の受験番

号を見つけたときは、思わず二度見してしまうぐらい信じられなかった。

当時は“今”振り返って思うことは、たくさんの人の支えによって合格できたということである。私自身が頑張るのは当たり前であるが、その“当たり前”を“当たり前”にさせてくれた両親をはじめ、事務職員さんやサポート室の先生方、教授からのサポート、そして一緒に頑張れる仲間がいたからこそ私は頑張ることができた。特に、「紗依ならできるよ」、「佐竹さんなら大丈夫」「採用試験、頑張ろうな！」という言葉と愛顔には、くじけそうなきに力をもらった。

これから「教員採用試験」を受ける人に私が伝えたいことが3つある。1つ目は、『諦めないでほしい』ということ。「【現役合格】は難しい」、この言葉で何人もの友だちが試験を受けること自体を諦めてしまった。受験の前から諦めてしまうことは、自分から扉を閉めてしまっているのと同じである。みなさんには、ぜひ1歩を踏み出してもらいたい。

2つ目は、『自分なりの勉強方法を見つけておく』ことである。私は要領があまりよくないため、他人よりも時間をかける必要があった。そのため、サポート室を遅くまでお借りしていたが、この方法は万人向けではない。ぜひ、高校受験、大学受験のときを思い出して、自分なりの勉強方法を見つけておいてください。

3つ目は、『教職サポート室を活用する』ことである。現在、サポート室には教職関連の先輩方のレポートや教員採用試験の過去問題、試験報告書などが置いてある。また、いつでも相談に乗ってくださる先生方がおられる。1人で採用試験対策に悩まず、先生方や先輩方の資料を参考にしてもらえたらと思う。

「教員になる！」という目標・夢が叶ったことで新たな「目標」、「夢」ができた。この目標や夢が叶うようにこれからも学び続けていきたい。